

# 串本町 農林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

## 1. 基本的事項

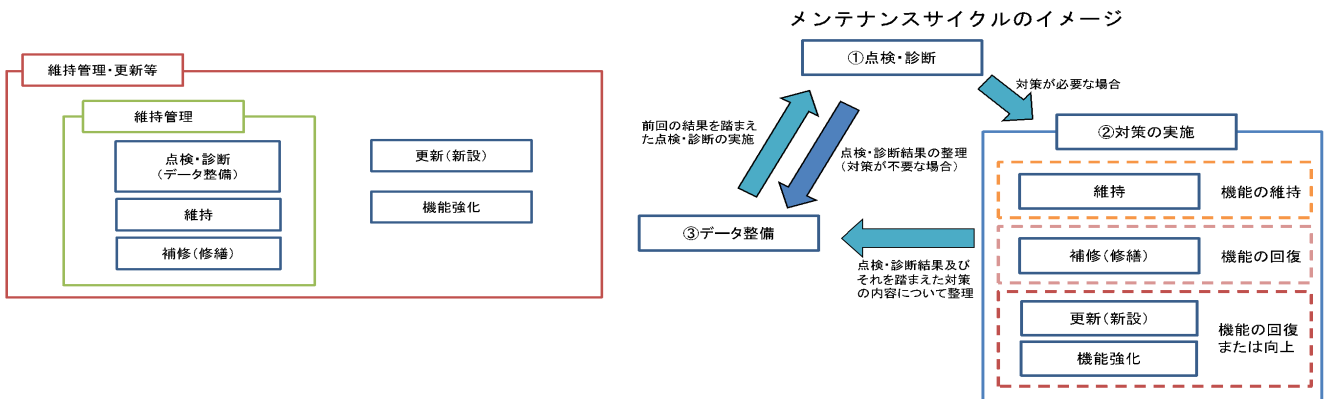
串本町における林道施設として31橋の林道橋、農道施設として2橋の農道橋があるが、現状として、築後50年以上の橋梁など老朽化した橋梁が多く、施設の老朽化や損傷に対しての補修工事等は未対応の状況にある。

今後、林道施設の老朽化に伴って維持管理費が増加する傾向にある中、近年の社会情勢として、少子高齢化による人口減少による財源縮小および社会福祉予算の増大で公共事業費を削減せざるを得ない状況にあり、限られた予算内で既存の林道施設を適切に維持管理していくことが課題となっている。

これらを踏まえ、維持管理に当たっては「予防保全型維持管理」の考え方を導入し、判定区分「Ⅰ：早期措置段階」などの損傷程度の大きい橋梁から補修対策を講じるとともに、年間予算配分が可能な範囲で判定区分「Ⅱ：予防保全段階」の中でも比較的損傷の大きい橋梁から順次、予防保全的に補修対策を進め、また、土砂除去や清掃等の維持作業にて対応できるものや定期点検など、必要な対策を適切に実施する。

### ・維持管理・更新について

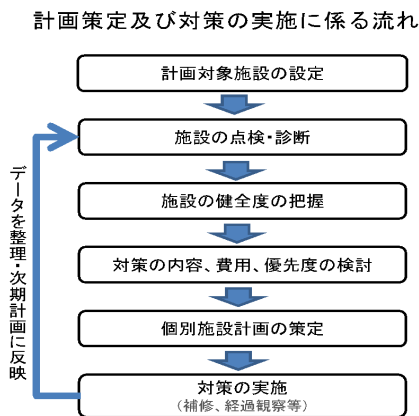
維持管理・更新として、点検・診断を実施し、その結果を踏まえて維持、補修といった維持管理を実施したり、更新、機能強化を実施することをいう。以下にその概図とメンテナンスサイクルのイメージを示す。



「林道施設に係る個別施設計画策定のためのガイドライン（平成27年3月）林野庁整備課」より

### ・計画策定及び対策の実施に係る流れ

施設の長寿命化計画策定及び対策実施の流れの概略図を以下に示す。



「林道施設に係る個別施設計画策定のためのガイドライン（平成27年3月）林野庁整備課」より

## 2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

### 3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

### 4. 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

### 5. 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された（または本計画の策定時点で把握されている）施設毎の状態については別紙のとおりである。

なお、点検・診断が未実施の施設については、点検実施予定時期を記載している。

### 6. 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙のとおり計画する。

### 7. 対策費用

個別施設ごとの対策費用の概算については別紙のとおりである。なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合がある。

## 2-2 林道橋 一覧表及び個票

個別施設計画一覧表(橋梁)

※年月日:令和2年3月31日

Table with columns for facility details (No., route, location, type), current status (inspection date, findings), plan content (schedule, content, cost), and record of measures (implementation date, content, cost, priority). Rows 1-31 list various bridges like No.1 to No.31 across different routes.

注) No9, 10は大山線内にあるため、大山線起点からの距離を表示した。

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号	旧古座町No.6	施設管理者	串本町
路線名	八郎山線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	No1号橋床版橋
施設の所在地	串本町上田原	起点からの距離	1.7 km	建設年度	S49(推定)
供用年数	46年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	2等(TL-14)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.4 m (7.0) m		幅員(車道幅員)	4.0 m (3.6) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	直接基礎(推定)	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月21日				
	調査結果	橋台の基部に洗堀が、桁端部に段差が確認された。緊急性は無いが定期点検において経過観察により進展を確認することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	A1,A2橋台の縦壁下部に洗堀があり、次回点検時に進展を確認することが望ましい。			
	劣化原因	経年の流水、竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考										

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号	旧古座町No.6	施設管理者	串本町
路線名	八郎山線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	No2号橋床版橋
施設の所在地	串本町上田原	起点からの距離	2.3 km	建設年度	S45(推定)
供用年数	50年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	2等(TL-14)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.3 m (4.9) m		幅員(車道幅員)	4.0 m (3.6) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月21日				
	調査結果	桁端部に段差が確認された。特に緊急性は無いものと考えられる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	桁端部路面に凹凸があり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号	旧古座町No.6	施設管理者	串本町
路線名	八郎山線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	No3号橋床版橋
施設の所在地	串本町上田原	起点からの距離	2.1 km	建設年度	S45(推定)
供用年数	50年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	2等(TL-14)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.5 m (4.1) m		幅員(車道幅員)	4.0 m (3.6) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月21日				
	調査結果	橋台の基部に洗堀が確認された。緊急性は無いが定期点検において経過観察により進展を確認することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	A1・A2橋台の縦壁下部に洗堀があり、次回点検時に進展を確認することが望ましい。			
	劣化原因	経年の流水によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号	旧古座町No.11	施設管理者	串本町
路線名	立場谷線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No4号橋床版橋
施設の所在地	串本町上田原	起点からの距離	0.3 km	建設年度	S59(推定)
供用年数	36年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S58林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5 m (7.1) m		幅員(車道幅員)	3.6 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月21日				
	調査結果	桁端部に段差が確認された。特に緊急性は無いものと考えられる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	桁端部路面に凹凸があり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考



林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号	旧串本町No.1	施設管理者	串本町
路線名	和深鶴川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	No5号橋出谷橋
施設の所在地	串本町吐生	起点からの距離	1.5 km	建設年度	H5(推定)
供用年数	27年(推定)	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	H3林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	2等(TL-14)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	24.5 m (23.8) m		幅員(車道幅員)	5.6 m (4.6) m
	施設の構造等	上部工型式	鋼単純鉄桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	鋼製(耐候性鋼材)	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月23日				
	調査結果	主桁の防食機能劣化、床版下面の遊離石灰を伴うひびわれがあり、予防保全段階ではあるものの比較的損傷が大きいため、早めの予防保全措置実施が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁端部に防食機能劣化、床版下面に遊離石灰を伴うひびわれ、路面の凹凸があり、予防保全措置が望ましい。			
	劣化原因	橋面防水機能が無いことや桁下へのジョイント漏水や伝い水など、全体に湿潤状態にあることや、施工不良、経年劣化によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	主桁の塗装塗替、床版下面のひびわれ補修、橋面防水等の補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	比較的早期に補修を行うことが望ましいため、令和4年に実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 予防保全段階ではあるがなるべく早期に補修を行うことが望ましいため、優先度は「高」とした。			
	対策費用(参考)	塗装工、ひびわれ補修工 約 7000千円				
管理方法	予防保全の観点から、主桁の塗装塗替、橋面防水等の補修対策工を早めに実施し、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)			7.0		0.2					0.2
対策の内容・実施時期			補修工		定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号	旧串本町No.2	施設管理者	串本町
路線名	大山線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	No6号橋大山橋
施設の所在地	串本町比曽原	起点からの距離	1.5 km	建設年度	S50(推定)
供用年数	45年(推定)	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	2等(TL-14)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	20.3 m (19.8) m		幅員(車道幅員)	4.3 m (3.6) m
	施設の構造等	上部工型式	鋼単純鉄桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	鋼製(SS400[想定])	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	不明		基礎形式	直接基礎(推定)	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月22日				
	調査結果	主桁、横桁、支承など鋼部材全体に腐食、防食機能の劣化が生じており、早期に補修対策等の措置を行う必要がある。				
	健全性の診断結果	(早期措置段階)	主桁全体、横桁、支承に防食機能劣化・腐食が、床版に遊離石灰を伴うひびわれが多くあり、早期の補修措置が望ましい。			
	劣化原因	橋面防水機能が無いことや桁下へのジョイント漏水や伝い水など、全体に湿潤状態にあることや、施工不良、経年劣化によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	鋼部材の塗装塗替、床版下面のひびわれ補修、橋面防水等の補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	早期措置段階であるため、令和4年に実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 早期措置段階であるため、優先度は「高」とした。			
	対策費用(参考)	塗装工、ひびわれ補修工 約 7000千円				
管理方法	早期の補修対策措置として、鋼部材の塗装塗替、橋面防水等の補修対策工を次回点検迄に実施し、その後、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)			7.0		0.2					0.2
対策の内容・実施時期			補修工		定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号	旧串本町No.3	施設管理者	串本町
路線名	吐生線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No7号橋床版橋
施設の所在地	串本町吐生	起点からの距離	0.7 km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程以前(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.7 m (5.3) m		幅員(車道幅員)	4.0 m (3.6) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月23日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号	旧串本町No.4	施設管理者	串本町
路線名	比曾原線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No8号橋T桁橋
施設の所在地	串本町里川	起点からの距離	0.8 km	建設年度	S31以前(推定)
供用年数	64年以上(推定)	種別	RCT橋	型式	コンクリートT桁橋
道路橋示方書	S30林道規程以前(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.0 m (4.6) m		幅員(車道幅員)	3.6 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年11月22日				
	調査結果	主桁、横桁、床版に漏水・遊離石灰、剥離・鉄筋露出、下部工や支承にも損傷が生じており予防保全段階ではあるものの比較的損傷が大きいため、早めの予防保全措置実施が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁、横桁、床版に漏水・遊離石灰、剥離・鉄筋露出、橋台下部に剥離、支承に防食機能劣化・腐食があり、予防保全措置が望ましい。			
	劣化原因	橋面防水機能が無いことや桁下へのジョイント漏水や伝い水など、全体に湿潤状態にあることや、施工不良、経年劣化によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	主桁、横桁、床版等の断面修復、橋面防水等の補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	比較的早期に補修を行うことが望ましいため、令和5年に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階ではあるが比較的早めに補修を行うことが望ましいため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(参考)	断面修復工 約 4000千円				
管理方法	予防保全の観点から、主桁、横桁、床版の断面修復、橋面防水等の補修対策工を早めに実施し、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				4.0	0.2					0.2
対策の内容・実施時期				補修工	定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	9	林道台帳索引番号	旧串本町No.4	施設管理者	串本町
路線名	比曾原線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No9号橋T桁橋
施設の所在地	串本町里川	起点からの距離	0.2 km	建設年度	S31以前(推定)
供用年数	64年以上(推定)	種別	RCT橋	型式	コンクリートT桁橋
道路橋示方書	S30林道規程以前(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5 m (8.0) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月22日				
	調査結果	主桁、横桁に剥離・鉄筋露出が点在しており、予防保全対策実施が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁、横桁に剥離・鉄筋露出が多数あり、予防保全措置が望ましい。			
	劣化原因	鉄筋のかぶり不足等による施工不良、経年劣化によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	主桁、横桁の断面修復等、補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	他橋梁との優先順位を考慮して令和7年に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全の観点から、優先度は「中」とした。			
	対策費用(参考)	断面修復工 約 4000千円				
管理方法	予防保全の観点から、主桁、横桁の断面修復等の補修対策工をなるべく早めに行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2	4.0				0.2
対策の内容・実施時期					定期点検	補修工				定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	10	林道台帳索引番号	旧串本町No.4	施設管理者	串本町
路線名	比曾原線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No10号橋T桁橋
施設の所在地	串本町里川	起点からの距離	0.7 km	建設年度	S31以前(推定)
供用年数	64年以上(推定)	種別	RCT橋	型式	コンクリートT桁橋
道路橋示方書	S30林道規程以前(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.2 m (6.8) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (3.1) m
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月22日				
	調査結果	主桁の剥離・鉄筋露出が生じており、予防保全対策実施が望ましい。また、緊急性は無いが桁端部に段差が確認された。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁に剥離・鉄筋露出が点在しており、予防保全措置が望ましい。			
	劣化原因	鉄筋のかぶり不足等による施工不良、経年劣化によるものと考えられる。桁端部の段差は竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	主桁の断面修復等、補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	他橋梁との優先順位を考慮して令和7年に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全の観点から、優先度は「中」とした。			
	対策費用(参考)	断面修復工 約 4000千円				
管理方法	予防保全の観点から、主桁の断面修復等の補修対策工をなるべく早めに行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2	4.0				0.2
対策の内容・実施時期					定期点検	補修工				定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	11	林道台帳索引番号	旧串本町No.5	施設管理者	串本町
路線名	二色線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No11号橋床版橋
施設の所在地	串本町二色	起点からの距離	1.6 km	建設年度	S58(推定)
供用年数	37年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S55林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.3 m (4.9) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (3.1) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月19日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	12	林道台帳索引番号	旧串本町No.5	施設管理者	串本町
路線名	二色線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No12号橋床版橋
施設の所在地	串本町二色	起点からの距離	3.2 km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.4 m (6.0) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月19日				
	調査結果	特に緊急性は無いが桁端部に段差が確認された。また、橋面全体に著しい土砂堆積、コケ繁茂が生じている。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	桁端部路面に凹凸、路面全体にコケ繁茂があり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	経年による土砂堆積、車両の通行が少ないことが考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	維持作業にて土砂除去、清掃を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	維持対応のため、令和3年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 損傷としては緊急性を伴わないもので、維持作業で対応できるため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)	土砂除去、清掃 約 500千円				
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)		0.5			0.2					0.2
対策の内容・実施時期		維持			定期点検					定期点検

備 考



林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	13	林道台帳索引番号	旧串本町No.5	施設管理者	串本町
路線名	二色線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No13号橋床版橋
施設の所在地	串本町二色	起点からの距離	2.0 km	建設年度	S58(推定)
供用年数	37年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S55林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.2 m (10.8) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	その他橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月19日				
	調査結果	桁端部に段差が確認された。特に緊急性は無いものと考えられる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	桁端部路面に凹凸があり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	14	林道台帳索引番号	旧串本町No.6	施設管理者	串本町
路線名	田ノ郷線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No14号橋床版橋
施設の所在地	串本町田並上	起点からの距離	0.1 km	建設年度	S27(推定)
供用年数	68年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程以前(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.9 m (4.5) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	その他橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月18日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	15	林道台帳索引番号	旧串本町No.6	施設管理者	串本町
路線名	田ノ郷線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No15号橋床版橋
施設の所在地	串本町田並上	起点からの距離	0.4 km	建設年度	S59(推定)
供用年数	36年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S58林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.4 m (4.0) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	その他橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月18日				
	調査結果	橋台の基部に洗堀が確認された。緊急性は無いが定期点検において経過観察により進展を確認することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	A1,A2橋台縦壁下部に洗堀があり、次回点検時に進展を確認することが望ましい。			
	劣化原因	経年の流水によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	16	林道台帳索引番号	旧串本町No.6	施設管理者	串本町
路線名	田ノ郷線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No16号橋床版橋
施設の所在地	串本町田並上	起点からの距離	0.7 km	建設年度	S60(推定)
供用年数	35年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S59林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.9 m (4.4) m		幅員(車道幅員)	4.2 m (3.7) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月19日				
	調査結果	橋台にひびわれ箇所があり、予防保全措置が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	A2橋台胸壁側面にひびわれがあり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	施工不良、経年劣化によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	ひびわれ補修等、補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	他橋梁との優先順位を考慮して令和9年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 予防保全段階で軽微な損傷であることから、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)	ひびわれ補修工 約 2000千円				
管理方法	他橋梁との優先度を考慮して必要に応じて補修を行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2			2.0		0.2
対策の内容・実施時期					定期点検			補修工		定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	17	林道台帳索引番号	旧串本町No.7	施設管理者	串本町
路線名	高富線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No17号橋床版橋
施設の所在地	串本町高富	起点からの距離	2.1 km	建設年度	S45(推定)
供用年数	50年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.1 m (4.7) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月20日				
	調査結果	橋面全体に著しい土砂堆積が生じている。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	桁端部路面に凹凸、路面の土砂堆積があり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	経年による土砂堆積、車両の通行が少ないことが考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	維持作業にて土砂除去、清掃を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	維持対応のため、令和3年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 損傷としては緊急性を伴わないもので、維持作業で対応できるため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)	土砂除去、清掃 約 500千円				
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)		0.5			0.2					0.2
対策の内容・実施時期		維持			定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	18	林道台帳索引番号	旧串本町No.7	施設管理者	串本町
路線名	高富線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No18号橋床版橋
施設の所在地	串本町高富	起点からの距離	1.8 km	建設年度	S45(推定)
供用年数	50年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.5 m (5.1) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月20日				
	調査結果	桁端部に段差が確認された。特に緊急性は無いものと考えられる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	桁端部路面に凹凸があり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考										

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	19	林道台帳索引番号	旧串本町No.7	施設管理者	串本町
路線名	高富線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No19号橋床版橋
施設の所在地	串本町高富	起点からの距離	1.4 km	建設年度	S45(推定)
供用年数	50年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.9 m (5.5) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年11月20日				
	調査結果	橋台の基部に洗堀が、桁端部に段差が確認された。緊急性は無いが定期点検において経過観察により進展を確認することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	A2橋台縦壁下部に洗堀があり次回点検時に進展を確認、また、桁端部路面に凹凸があり予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	経年の流水、竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考										

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	20	林道台帳索引番号	旧串本町No.7	施設管理者	串本町
路線名	高富線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No20号橋床版橋
施設の所在地	串本町高富	起点からの距離	1.1 km	建設年度	S45(推定)
供用年数	50年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.7 m (6.2) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月20日				
	調査結果	主桁に小規模な剥離・鉄筋露出があり、予防保全措置が望ましい。また、緊急性はないが桁端部に段差が確認された。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁下面に小規模な剥離・鉄筋露出が点在、桁端部路面に凹凸があり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	施工不良、経年劣化によるものと考えられる。桁端部の段差は竣工時からの土工部との擦り付け不足によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	断面修復等、補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	他橋梁との優先順位を考慮して令和8年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 予防保全段階で軽微な損傷であることから、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)	断面修復工 約 2000千円				
管理方法	他橋梁との優先度を考慮して必要に応じて補修を行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2		2.0			0.2
対策の内容・実施時期					定期点検		補修工			定期点検

備 考



林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	21	林道台帳索引番号	旧串本町No.7	施設管理者	串本町
路線名	高富線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No21号橋床版橋
施設の所在地	串本町高富	起点からの距離	0.4 km	建設年度	S45(推定)
供用年数	50年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.5 m (6.1) m		幅員(車道幅員)	3.7 m (3.3) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月20日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	22	林道台帳索引番号	旧串本町No.7	施設管理者	串本町
路線名	高富線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No22号橋溝橋
施設の所在地	串本町高富	起点からの距離	0.1 km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RCボックスカルバート	型式	コンクリート溝橋
道路橋示方書	S48林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.8 m (3.4) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (2.9) m
	施設の構造等	上部工型式	RC溝橋BOXカルバート			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	RC溝橋BOXカルバート		基礎形式	直接基礎(推定)	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月20日				
	調査結果	主桁、下部工に軽微なひびわれがあり、予防保全措置が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁、下部工に部分的にひびわれがあり、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	乾燥収縮、経年劣化によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	断面修復等、補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	他橋梁との優先順位を考慮して令和9年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 予防保全段階で軽微な損傷であることから、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)	ひびわれ補修工 約 2000千円				
管理方法	他橋梁との優先度を考慮して必要に応じて補修を行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2			2.0		0.2
対策の内容・実施時期					定期点検			補修工		定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	23	林道台帳索引番号	旧串本町No.8	施設管理者	串本町
路線名	鬮野川線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No23号橋床版橋
施設の所在地	串本町鬮野川	起点からの距離	0.1 km	建設年度	S46(推定)
供用年数	49年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.1 m (4.7) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月21日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	24	林道台帳索引番号	旧串本町No.8	施設管理者	串本町
路線名	鬮野川線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No24号橋床版橋
施設の所在地	串本町鬮野川	起点からの距離	0.2 km	建設年度	S46(推定)
供用年数	49年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.5 m (5.0) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (3.1) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月22日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり健全である。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	25	林道台帳索引番号	旧串本町No.10	施設管理者	串本町
路線名	右里川線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	No25号橋床版橋
施設の所在地	串本町里川	起点からの距離	0.1 km	建設年度	S52(推定)
供用年数	43年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S48林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	3等(TL-9)(推定)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.2 m (4.8) m		幅員(車道幅員)	4.4 m (4.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月25日				
	調査結果	橋面全体に著しい土砂堆積が生じている。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	舗装全体に著しい土砂堆積があり、通行機能に支障が生ずる恐れがあるため、土砂除去が望ましい。			
	劣化原因	経年による土砂堆積、車両の通行が少ないことが考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	維持作業にて土砂除去、清掃を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	維持対応のため、令和3年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 損傷としては緊急性を伴わないもので、維持作業で対応できるため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)	土砂除去、清掃 約 500千円				
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)		0.5			0.2					0.2
対策の内容・実施時期		維持			定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	26	林道台帳索引番号	旧串本町No.11	施設管理者	串本町
路線名	里川線	林道種類及び区分	軽車道	橋梁名	No26号橋床版橋
施設の所在地	串本町里川	起点からの距離	1.0 km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	軽車道橋(軽自動車相当)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.7 m (4.3) m		幅員(車道幅員)	3.4 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月25日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	27	林道台帳索引番号	旧串本町No.11	施設管理者	串本町
路線名	里川線	林道種類及び区分	軽車道	橋梁名	No27号橋床版橋
施設の所在地	串本町里川	起点からの距離	1.1 km	建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	軽車道橋(軽自動車相当)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.3 m (5.9) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (3.1) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年11月25日				
	調査結果	主桁下面全体に亀甲状のひびわれが生じており、予防保全段階ではあるものの比較的損傷が大きいため、早めのひびわれの原因特定と予防保全措置実施が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁下面全面に亀甲状のひびわれがあり、予防保全措置が望ましい。また損傷の進行について経過観察が必要。			
	劣化原因	橋面防水機能が無いこと等による水分の供給や、コンクリートの品質に問題がある可能性があるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	床版下面のひびわれ補修、コンクリート表面保護工やコンクリート内部の改質、橋面防水等の補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	比較的早期に補修を行うことが望ましいため、令和5年に実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 予防保全段階ではあるがなるべく早期に補修を行うことが望ましいため、優先度は「高」とした。			
	対策費用(参考)	ひびわれ補修工 約 4000千円				
管理方法	予防保全の観点から、床版のひびわれ補修等の対策工、橋面防水等の補修対策工を早め実施し、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				4.0	0.2					0.2
対策の内容・実施時期				補修工	定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	28	林道台帳索引番号	旧串本町No.14	施設管理者	串本町
路線名	才助谷線	林道種類及び区分	軽車道	橋梁名	No28号橋床版橋
施設の所在地	串本町田並上	起点からの距離	1.4 km	建設年度	S31以前(推定)
供用年数	64年以上(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	軽車道橋(軽自動車相当)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.6 m (8.1) m		幅員(車道幅員)	2.6 m (2.3) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	その他橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月18日				
	調査結果	橋台の基部に洗堀が確認された。緊急性は無いが定期点検において経過観察により進展を確認することが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	A1,A2橋台の縦壁下部に洗堀があり、次回点検時に進展を確認することが望ましい。			
	劣化原因	経年の流水によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考



林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	29	林道台帳索引番号	旧串本町No.14	施設管理者	串本町
路線名	才助谷線	林道種類及び区分	軽車道	橋梁名	No29号橋T桁橋
施設の所在地	串本町田並上	起点からの距離	1.7 km	建設年度	S31～37(推定)
供用年数	58～64年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	軽車道橋(軽自動車相当)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.7 m (7.1) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月18日				
	調査結果	主桁に小規模な剥離・鉄筋露出があり、予防保全措置が望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁に剥離・鉄筋露出が点在しており、予防保全対応が望ましい。			
	劣化原因	施工不良、経年劣化によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	断面修復等、補修工事を行う。また、5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	他橋梁との優先順位を考慮して令和8年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 予防保全段階で軽微な損傷であることから、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)	断面修復工 約 2000千円				
管理方法	他橋梁との優先度を考慮して必要に応じて補修を行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2		2.0			0.2
対策の内容・実施時期					定期点検		補修工			定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	30	林道台帳索引番号	旧串本町No.14	施設管理者	串本町
路線名	才助谷線	林道種類及び区分	軽車道	橋梁名	No30号橋床版橋
施設の所在地	串本町田並上	起点からの距離	2.1 km	建設年度	S31～37(推定)
供用年数	58～64年(推定)	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	軽車道橋(軽自動車相当)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.7 m (7.3) m		幅員(車道幅員)	2.3 m (2.1) m
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	その他橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的としての利用が考えられるが、進入路の落石や路肩崩落により車両通行不可の状況。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月18日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

林道橋個別施設計画

個別施設整理番号	31	林道台帳索引番号	旧串本町No.15	施設管理者	串本町
路線名	二色支線	林道種類及び区分	軽車道	橋梁名	No31号橋T桁橋
施設の所在地	串本町二色	起点からの距離	0.0 km	建設年度	S31～37(推定)
供用年数	58～64年(推定)	種別	RCT橋	型式	コンクリートT桁橋
道路橋示方書	S30林道規程(推定)	橋格(設計荷重)	軽車道橋(軽自動車相当)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.5 m (9.0) m		幅員(車道幅員)	3.5 m (3.0) m
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	無
		支承形式	-	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎(推定)
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	森林管理等を目的とする車両が僅かに通行利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和1年11月19日				
	調査結果	軽微な損傷のみで比較的良好な状態。				
	健全性の診断結果	I (健全)	軽微な損傷のみであり、健全と判断される。			
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	5年毎に定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和6年及び令和11年に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 緊急性を伴わない定期点検のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(参考)					
管理方法	5年に1回の定期点検を実施し、損傷箇所の経過観察を行う。次回点検において早期に補修が必要と判断された場合には適切に補修対策を行う。また、路面の土砂除去、清掃等を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)					0.2					0.2
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

## 2-3 農道橋 一覧表及び個票

個別施設計画一覧表(橋梁[農道橋])

【新年月日:令和2年3月31日】

個別施設 整理番号	路線名	橋梁名	所在地	建設 年度	供用 年数	種別	道路橋 示方書	橋格 (設計荷重)	橋下 条件	橋長 (m)	支間 長 (m)	幅員 (m)	車道 幅員 (m)	上部工型式	橋台工 型式	橋脚工 型式	海岸から の距離 (km)	施設の現況			計画内容					措置記録					備考		
																		点検実施 年月日	判 定 区 分	所見等	計画期間	内容		実施予 定時期	対策費用 (概算:百 万円)	優先 度	実施 年月日	内容		再判定 実施 年月日		再判 定 区 分	
																						分類	概要(数量)					分類	概要(数量)				
1	南畜農道	南畜農道無名橋	串本町 犬島	H7	25年	PC橋	H6道示	A活荷重	道路	24.0	23.9	4.5	3.5	ポストT桁橋	重力式橋台	—	—	2020年3月5日	I	目立った損傷は無く、健全と判断される。	令和2年度～ 令和11年度	点検	—	R6.R11	0.4	低							
2	上の宮線	上の宮橋	串本町 上田原	S59	36年	鋼橋	S47道示	2等(TL-14) (推定)	河川	27.4	27.3	3.2	2.5	合成H桁橋	重力式橋台	—	2.8km	2020年3月5日	II	主桁に部分的な腐食と防食劣化、丁目支承 の劣化、橋脚部に浸透があり、予防保全対 処が望ましい。	令和2年度～ 令和11年度	点検	—	R6.R11	0.4	低							

【別記様式1】個別施設計画(橋梁)

農道橋

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
南畜農道無名橋	平成7年度	串本町	南畜農道 県道檜野串本線	県営事業	串本町大島	

道路橋示方書	平成6年版	橋の等級(設計荷重)	A活荷重	特記事項	-
--------	-------	------------	------	------	---

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	24.0m(23.9m)		幅員(車道幅員)	4.5m (3.5m)
	施設の構造	上部工型式	単純PCポステンT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無
		-	無	ゴム支承	有	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
計画策定目的	串本町が管理している本橋梁は、架橋より25年経過している。今後の点検において損傷の状況を確認し、点検結果に応じてその後の補修対策や長寿命化計画を策定する。					
調査結果概要	現地調査	目視点検において大きな損傷が確認されなかったことから、比較的健全度が高い橋梁と考えられる。				
	詳細調査(点検)	目立った損傷はなし。				
	劣化原因(推定)	-				
長寿命化対策概要	対策工法(案)	当面必要なし。				
	対策時期(案)	当面对策の必要なし。				
	対策費用(参考)	-				
管理方法	定期的な点検及び維持作業を適切に行うことで、予防保全的に管理していくことが望ましい。次回の点検において早期措置段階の損傷が見られた場合は早期に補修対策を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(長寿命化)(百万円)					0.2					0.2
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期					定期点検					定期点検

長寿命化計画による効果

--

【別記様式1】個別施設計画(橋梁)

農道橋

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
上の宮橋	昭和59年度	串本町	上の宮線 2級河川田原川	第三期山村振興 農林漁業対策事業	串本町上田原	

道路橋示方書	昭和47年版	橋の等級(設計荷重)	二等(TL-14)(推定)	特記事項	-
--------	--------	------------	---------------	------	---

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	27.4m(27.3m)		幅員(車道幅員)	3.2m (2.5m)
	施設の構造	上部工型式	単純合成H桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無
		鋼製(不明)	有	ゴム支承	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	2.8km		

計画策定目的	串本町が管理している本橋梁は、架橋より36年経過している。軽微な損傷が確認できるものの、早期の対策が必要な段階ではないと判断する。今後の点検において損傷の状況を確認し、点検結果に応じてその後の補修対策や長寿命化計画を策定する。
--------	---

調査結果概要	現地調査	主桁に部分的な腐食と防食機能の劣化等が見られるが、目視点検において大きな損傷が確認されなかったことから、比較的健全度が高い橋梁と考えられる。緊急性は無いが定期点検において経過観察により進展を確認することが望ましい。
	詳細調査(点検)	主桁に部分的な腐食と防食機能の劣化、ゴム支承の変形、桁端部の段差が見られるが、いずれも予防保全段階である。
	劣化原因(推定)	伝い水等による経年劣化、施工不良によるものと考えられる。

長寿命化対策概要	対策工法(案)	当面必要なし。
	対策時期(案)	当面对策の必要なし。
	対策費用(参考)	-

管理方法	定期的な点検及び維持作業を適切に行うことで、予防保全的に管理していくことが望ましい。次回の点検において早期措置段階の損傷が見られた場合は早期に補修対策を行う。
------	---

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(長寿命化)(百万円)					0.2					0.2
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期					定期点検					定期点検

長寿命化計画による効果

--